感染症

綜　説

歯周内科病治療並びに口腔メンテナンスによる全身状態の変化

生田　図南*

今回報告する症例は，2004年4月に当院において経験した症例である．患者は高血圧，喘息等の基礎疾患を有し，外科的な処置が禁忌であったため，本来であれば抜歯以外の選択肢はないと思われる歯牙の抜歯処置を行わず，内科的な歯周病治療，動揺歯牙の外傷性咬合のコントロールを行ったところ，4年後には劇的な歯槽骨の再生を確認することができた．

また，本症例以外にも多数，内科的な歯周病治療や外傷性咬合のコントロールにより歯槽骨の改善を見ることができた症例を多数経験することができた．

このような歯槽骨の吸収が重度な症例で動揺歯牙の再生治療を行わないで長期保存を行った症例の報告を経験したことがなかったので，紹介する．

また，アジスロマイシンとアムホテリシンBシロップの2剤併用による歯周内科治療を行い，その後，長期にわたって口腔の定期メンテナンスを行っている患者に対して，口腔の定期メンテナンスによる口腔や，全身の変化・影響についてアンケートを行うとともに，全身疾患の歯周内科治療後における変化についてもアンケートを行ったので，併わせて報告を行う．

*Tonami IKUTA　熊本県：医療法人社団南生会生田歯科医院／院長
有限責任中間法人　国際歯周内科学研究会　代表理事

（2009年5月）

Copyright (C) 2009 Astellas Pharma Inc. All rights reserved.